

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	経済学 I		(NGB24E)
講義名 (コード)	経済学 I D		(NGB24ED)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	高橋 亨	時間数	30
成績評価教員	高橋 亨	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	経済が日常生活や企業経営に及ぼす影響を事例及び実践ワークを通して学ぶことで、社会人としての常識となる経済学を修得する。
全体の内容と概要	「日常生活」「企業活動」「市場経済」「経済成長」「金融」「グローバル経済」の分野における経済理論、また現在の日本国内や海外の経済情勢を理解する。
授業時間外の学修	実践ワークを通じて経済活動を体験する
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で行うため、ヒアリングできる程度の日本語語学力が必要。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	出席率70%以上で期末試験受験者を対象とし、授業内実践ワークへの参加意欲も評価対象とする。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容

1	経済に対する基本的な考えを理解することが出来る	<ul style="list-style-type: none"> ▪ オリエンテーション（授業の進め方、経済学の範囲、学習概要） ・ 身の回りにおける経済学〈効率、効用、選好、限界効用逓減の法則〉
2	日常生活における経済学を理解することが出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りにおける経済学 〈希少性、機会費用、代替財と補完財、需要曲線と供給曲線〉
3	日常生活における経済学を理解することが出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りにおける経済学 〈上級財・下級財、所得効果、ギッフェン財・ヴェブレン財、消費余剰〉
4	日常生活における経済学を理解することが出来る	[実践ワーク] 物の値段を決める
5	企業にまつわる経済学を理解することが出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業にまつわる経済学 〈生産関数、費用曲線、限界収入・限界費用、競争市場、独占企業、価格調整〉
6	企業にまつわる経済学を理解することが出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業にまつわる経済学 〈規模の経済、プライスメーカー、ゲーム理論・ナッシュ均衡、囚人のジレンマ、フォーク定理、カルテル〉
7	企業にまつわる経済学を理解することが出来る	[実践ワーク] 原価と利益を計算する
8	中間テスト	・ 記述式テストの実施
9	市場にまつわる経済学を理解することが出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場にまつわる経済学 〈神の見えざる手、パレート最適、市場の失敗〉
10	市場にまつわる経済学を理解することが出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場にまつわる経済学 〈コースの定理、公共財、市場経済、GDP、GNP〉
11	市場にまつわる経済学を理解することが出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場にまつわる経済学 〈世界各国GDP、キャピタルゲイン、物価指数〉
12	市場にまつわる経済学を理解することが出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場にまつわる経済学 〈投資、消費、ケインズ経済学、財政政策〉
13	市場にまつわる経済学を理解することが出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場にまつわる経済学 〈乗数効果、完全失業率、財政赤字、プライマリーバランス〉
14	期末テスト	・ 記述式テストの実施
15	まとめと解説	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	「経済学見るだけノート」木暮太一著・宝島社
参考文献・資料等	なし
備考	セカイハブ https://sekai-hub.com/

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	マーケティング実践 I	(NGB24R)	
講義名 (コード)	マーケティング実践 I A	(NGB24RA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント(株)経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティング理論を理解し、各フレームワークを使えるようにする
全体の内容と概要	ワークショップを主体とし、地域に密着した企業や店舗のケーススタディを取り上げる
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	企業におけるマーケティングの重要性を理解できる	マーケティングとはなにか。意義と役割について理解する
2	販売とマーケティングの違いを理解できる	販売からマーケティングの概念に移行していきっている、その背景を解く
3	ニーズとウォンツの違いを理解できる	顧客の潜在的なニーズを考える。 人間が感じる欠乏状態と具体的な欲求とは
4	顧客満足度とマーケティングの関係を理解できる	企業活動の目的のひとつが顧客創造であり、顧客満足の意義を考察する
5	ターゲティングについて理解できる	セグメンテーション、ターゲット、ポジショニングを使ってみる
6	企業の内外環境分析を理解できる	SWOT分析を使って企業の「強み」と「弱み」を考察する
7	企業の内外環境分析を理解できる	SWOT分析を使って企業の「機会」と「脅威」を考察する
8	SWOT分析からマーケティング戦略を導くことができる	SWOT分析からマーケティング戦略を練ってみる
9	マーケティング・ミックスを設計することができる	マーケティング4Pから各戦術を練る
10	地域密着事例を通してマーケティングの理解を深めることができる	地域密着型企業のマーケティングを考察する
11	マーケティング・プロセスの仕組みを理解できる	顧客満足獲得に向けたマーケティング活動の流れをつくる
12	マーケティング・プロセスを設計できるようになる①	ワークショップ
13	マーケティング・プロセスを設計できるようになる②	"
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	経営戦略 I		(NGB24T)
講義名 (コード)	経営戦略 I A		(NGB24TA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント(株)経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	経営戦略の意義を理解し、様々なフレームワークを使えるようにする
全体の内容と概要	戦略的思考をしっかりと身に付け、ビジネス視野を広げ理解を深めるためにケーススタディやグループワークの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	経営戦略で学ぶことを理解できる	ガイダンス
2	企業のピラミッド構造を理解できる	企業における経営戦略の立ち位置とは
3	ミッションと経営戦略のつながりを理解できる	企業の方針を決める経営戦略とは。またミッションとのつながりは？
4	企業戦略について事例を通して理解できる	アップルはいかにして成長してきたのか
5	企業戦略について事例を通して理解できる	トヨタはいかにして成長してきたのか
6	企業戦略について事例を通して理解できる	自国の成長企業を取り上げて考察してみる
7	全社戦略、企業ドメインについて理解ができる	企業のドメインとは。企業ドメインを3つの観点から考えてみる
8	事業戦略について理解ができる	コトラーの競争地位戦略を学ぶ
9	機能別戦略について理解ができる	マーケティングや営業、組織、財務など企業に必要な戦略を学ぶ
10	いろいろな戦略があることを理解する	ブルーオーシャン戦略、ロングテール戦略、フリー戦略などを知る
11	同上	ケーススタディ
12	デジタル戦略について理解ができる	X-Techを学び、企業のDX化を調査しレポートをまとめる
13	同上	ワークショップ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	貿易商務論 I		(NGB25B)
講義名 (コード)	貿易商務論 I A		(NGB25BA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	田中 清夫	時間数	30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	海外との取引を行う会社で、輸出入を担当する為に必要な基本的な知識を身につける
全体の内容と概要	国内の売買取引を基本にして、国境を跨った海外との売り買いの取引で、気をつけることを身につけ、実際の輸出入取引を理解し、個人でも実践できることを目指す。実務検定を目指す。□
授業時間外の学修	特に貿易用語について、理解し使えるように復習をすること
履修上の注意事項等	授業では、グループ学習も行うので、積極的な参加が必要

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	国内の商取引の仕組みを理解し説明できる	オリエンテーションとして、授業の進め方を説明。国内の商取引手続きについてグループで検討し発表する。
2	国内売買取引契約を理解し説明できる	国内売買取引契約について説明する。グループで、どんなリスクがあるか検討し発表する。
3	貿易取引と国内取引の違いを理解し説明できる	貿易取引契約について説明する。グループで、国内取引と貿易取引の違いを検討し発表する。
4	貿易取引の関係者を説明できる	貿易取引の関係者を説明する。グループで国内取引の関係者と比較して貿易取引で特に必要になる関係者と役割を検討し発表する。
5	貿易取引の流れを説明できる	貿易取引の全体的な流れを説明する。グループでリスクを検討し、発表する。
6	貿易取引の用語を説明できる	貿易取引の用語を説明する。グループで、よく理解できない用語を選んで、その内容を調べて説明する。
7	貿易取引の用語を説明できる	グループで理解できない用語を選んで、その内容を調べて説明する。
8	輸出取引の手続きを説明できる	輸出取引について説明する。グループで、輸出に必要な書類を検討して、どんな書類があるか発表する
9	輸入取引の手続きを説明できる	輸入取引について説明する。グループで、輸入に必要な書類を検討して、どんな書類があるか発表する
10	ものの移動、書類の移動、金の移動があることを説明できる	貿易取引を「もの」「書類」「カネ」に着目して説明する。グループで、流れを図解して発表する。
11	信用状の仕組みを説明できる	信用状の仕組みを説明する。輸出グループ、輸入グループに別れて、信用状を作って発表する
12	信用状の記載事項を説明できる	信用状の仕組みを説明する。輸出グループ、輸入グループに別れて、信用状を作って発表する
13	テスト前の総復習	貿易取引の要点と用語について復習し、知識の定着を行う
14	まとめとテスト	貿易取引の要点と用語を含むテストを行う
15	フィードバック	結果の説明

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	13歳からの図解でやさしい貿易
参考文献・資料等	必要に応じて、コピー等を配布します。
備考	グループ学習が多いので積極的な参加が必要

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	世界情勢 I		(NGB25D)
講義名 (コード)	世界情勢 I A		(NGB25DA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	松尾早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	国際人になるための基礎知識としての世界情勢を理解し国際感覚を身につける
全体の内容と概要	SDG s 学習を中心とした世界情勢を学び、課題を見つけ解決策を共創するマインドを身につける
授業時間外の学修	新聞、ニュースに関心を持って毎日観る/読む
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション (旅のはじまり)	テキストの説明、世界情勢を知ることの意義、SDGsとは？
2	SDGsの概要を理解する	SDGs 17項目について
3	貧困と豊かさについて理解する	絶対的・相対的貧困の差を理解する 世界の格差の現状をデータで比較
4	世界の飢餓と食料について理解する	食の不均衡と廃棄問題を自分事化する フードロス削減のアイデアを考案。
5	世界の保険と福祉について理解する	世界の医療格差と福祉の現状を知る 各国の医療制度と長寿の背景を考察。
6	教育の公平性について理解する	教育を受けられない背景を構造的に知る 学習権の重要性を識字率から学ぶ
7	水と衛生について理解する	安全な水が社会に与える影響を学ぶ 水不足が招く紛争と生活の変化を調査
8	各国のエネルギー現状を理解する	クリーンエネルギーの必要性を知る 各国の再エネ導入事例と課題を比較
9	世界の経済と労働について理解する	働きがいと成長の両立を考える 適正価格（フェアトレード）を学ぶ
10	気候変動について理解する	地球温暖化が及ぼす具体的影響を知る 各国で起きている異常気象の事例
11	海洋汚染について理解する	海の豊かさと資源枯渇の深刻さ、 マイクロプラスチックと漁業の現状
12	森林保護の意義を理解する	陸の豊かさ、生物多様性、 砂漠化や森林破壊の最前線を学ぶ
13	前期のまとめ	まとめプリント
14	期末テスト	前期内容テスト
15	フィードバック、まとめ	テスト結果フィードバックと解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	自分ごとからはじめよう SDGs探求ワークブック～旅して学ぶ持続可能な考え方
参考文献・資料等	るるぶ地図でよくわかる世界の国大百科
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	会計財務 I		(NGB25F)
講義名 (コード)	会計財務 I A		(NGB25FA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター (株)、東京精電 (株) 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	1年次に学んだ簿記初級の内容を発展させ、商業簿記の基本を確実に理解することを目的とします。日商簿記3級レベルの知識と記帳技能の習得を目指します。
全体の内容と概要	テキストに沿って各種の会計処理方法を習得し、模擬問題を通して実践力を養いながら、検定試験に向けた対策を行います。
授業時間外の学修	新しい勘定科目や会計処理、計算問題が出てきます。練習問題や過去の問題にくり返し取り組むことで、内容をしっかり理解し、検定試験に必要な力を身につけましょう。
履修上の注意事項等	検定試験は随時受験できます。受験日を考えて計画的に学習してください。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	商品売買の基礎を復習し適切に処理できる	1 学年期末テスト内容復習（仕入および売上の返品・発送費仕訳） クレジット売掛金
2	前払金・前受金の処理ができる	商品売買の処理② 前払金・前受金
3	手形取引・電子記録債権を理解し正しく記帳できる	手形とは何か・手形の振出、支払・手形の受入、取立 電子記録債権・債務について
4	債権と債務を理解して適切に仕訳できる	その他の債権と債務①-1 貸付金と借入金
5	債権と債務を理解して適切に仕訳できる	その他の債権と債務①-2 未収入金と未払金
6	債権と債務を理解して適切に仕訳できる	その他の債権と債務②-1 立替金・預り金
7	債権と債務を理解して適切に仕訳できる	その他の債権と債務②-2 仮払金・仮受金
8	練習問題により処理を確実に理解し仕訳できる力をつける	債権と債務 練習問題
9	模擬問題により実践的な解答力を身につけることができる	本試験シミュレーション問題 第1回（抜粋）
10	模擬問題により実践的な解答力を身につけることができる	本試験シミュレーション問題 第2回（抜粋）
11	模擬問題により実践的な解答力を身につけることができる	本試験シミュレーション問題 第3回（抜粋）
12	模擬問題により実践的な解答力を身につけることができる	期末テスト範囲に合わせた本試験シミュレーション問題練習
13	模擬問題により実践的な解答力を身につけることができる	期末テスト範囲に合わせた本試験シミュレーション問題練習
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	土日で合格（うか）る日商簿記初級
参考文献・資料等	各問題集より練習問題・資格対策には問題集の模擬試験プログラムも活用します
備考	担当教員はPCスキル及び簿記の実務経験を活かし、 日商簿記初級～3級レベルの授業を展開する

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	プロジェクト演習Ⅲ		(NGB25H)
講義名 (コード)	プロジェクト演習ⅢA		(NGB25HA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	①プロジェクト学習を通して、課題解決の流れを理解し解決案を導けるようにする ②自分プロジェクトをアウトプットする
全体の内容と概要	人生やビジネスにおける課題発見と課題解決するための方法を学ぶ
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	プロジェクト演習の狙いと流れ
2	目的と目標の違いが理解できる	目的と目標の違いとは。自分の人生に当てはめて考えてみる
3	ライフキャリアについて理解ができる	5うのライフステージと8つのライフロールを考える
4	同上	自分のライフキャリアを作成する
5	ロジックツリーを理解できる	課題の解決方法を学ぶ
6	同上	ロジックツリーを使い、自分の課題を考えてみる
7	自分の強みを知ることができる	USPとはなにか。自分のUPSを見つける
8	メンターについて理解できる	メンターを知る、自分のメンターを探してみる
9	KGI、KSF、KPIを理解できる	KGI、KSF、KPIを理解し、自分の人生のKSFを探してみる
10	KSFを見つけることができる	ワークショップ
11	自分のプロジェクトを立案できる	自分プロジェクトの立案し、プレゼンテーションにまとめる
12	同上	ワークショップ
13	同上	ワークショップ
14	まとめ	発表
15	まとめ	発表

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス資格対策 I		(NGB25J)
講義名 (コード)	ビジネス資格対策 I A		(NGB25JA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	榊原 倫代	時間数	30
成績評価教員	榊原 倫代	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	グローバル人材として世界で活躍するための知識を習得する
全体の内容と概要	接客力、コミュニケーション力、ビジネスマナー、異文化適応力を学習する
授業時間外の学修	常日頃から場面に合ったマナーや言葉遣いを意識して行動しましょう
履修上の注意事項等	G検の合格と就職を目指して積極的な姿勢で学習しましょう

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	接遇の基本項目を身につける①	第1印象、身だしなみ、表情、目線について確認する
2	接遇の基本項目を身につける②	あいさつ・おじぎ・姿勢、美しく正しい動作を学び、ロールプレイする
3	接遇の基本項目を身につける③	接遇の基本項目の確認とふりかえり練習問題
4	好印象を与える話し方・聴き方を身につける①	話し方と聴き方、接遇の言葉づかい、プラスアルファの言葉がけ、空間管理、お客様心理について理解する
5	好印象を与える話し方・聴き方を身につける②	接客英語を学び、ロールプレイする
6	好印象を与える話し方・聴き方を身につける③	接客英語の復習 ふりかえり練習問題
7	正しく敬語が使えるようになる①	敬語の用法、尊敬語、謙譲語、ていねい語の確認と練習
8	正しく敬語が使えるようになる②	ウチとソト、まちがえやすい敬語、クッション言葉の確認と練習
9	正しく敬語が使えるようになる③	助詞の使い方、会話の方法の確認 ふりかえり練習問題
10	社会人としての心構えを理解する①	企業人に必要な要素、職場のルールとマナー、企業内コミュニケーション、環境整備について学ぶ
11	社会人としての心構えを理解する②	ストレス対処法、セルフトークを学ぶ ふりかえり練習問題
12	ビジネスマナーを身につける①	ビジネスマナーの意義、来客対応、席次、電話対応を学びロールプレイ
13	ビジネスマナーを身につける②	名刺の受け取り方・差し出し方、ビジネスメールについて学ぶ ふりかえり練習問題
14	まとめ	期末試験
15	まとめと解説	期末試験フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	G検 グローバル人材ビジネス実務検定公式テキスト 接遇編
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	検定対策 Ⅲ	(NGB25K)
講義名 (コード)	検定対策 ⅢA	(NGB25KA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 1
授業担当者	榊原 倫代	時間数 30
成績評価教員	榊原 倫代	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	サービス業で必要なおもてなしの力を身につけ、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項 等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「おもてなしの心」とは何か、少し理解できるようになる	授業の進め方についてオリエンテーション ＜第1課＞ これまでに感動したサービスや印象に残っている接客を思い出してまとめる
2	「おもてなしの心」とは何か、少し理解できるようになる	＜第1課＞ 自国と日本の接客を比べ、「おもてなし」について考える
3	会釈、敬礼、最敬礼ができるようになる	＜第1課＞ 分離礼の実践 サービス業でよく使う表現と合わせて練習する
4	第一印象を良くする身だしなみを整えることができる	＜第1課＞ の復習(まとめ問題) ＜第2課＞ 「おしゃれ」と「身だしなみ」について考える
5	良い人間関係を構築するためのあいさつができる	＜第2課＞ サービス業における「表情」について考える 物の指し示しと受け渡しの方法を知り練習する
6	手で指し示しながら誘導することができる	＜第2課＞ の復習(まとめ問題) ＜第3課＞ 実際の場面を想像して、お客さまを誘導する練習する
7	方向を指し示しながら誘導することができる	ご案内の方法を学び、 お客さまをホテルのフロントから客室まで案内することを想定して練習する
8	お客さまの要望に対して、確認してから提案ができるようになる	＜第3課＞ の復習(まとめ問題) ＜第4課＞ サービス業における「確認」の方法を学ぶ
9	お客さまの気持ちを察し、一歩進んだ対応ができるようになる	クッション言葉について学び、 お客さまが求めていることを察して提案する練習をする
10	お客さまが安心できる対応をすることができる	＜第4課＞ の復習(まとめ問題) ＜第5課＞ お客さまの心理を考え、対応する練習をする①
11	さまざまな状況に合わせて、一番良い方法で迅速に対応できる	お客さまの心理を考え、対応する練習をする②
12	前期で学習したことを確認し、実践できる。	＜第5課＞ の復習(まとめ問題) 第1課～第5課の復習をし、テストに向けて練習する
13	前期で学習したことを確認し、実践できる	実技テスト①
14	前期で学習したことを確認し、実践できる	実技テスト②
15	まとめと解説	実技テスト③ / フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	おもてなしの日本語
参考文献・資料等	マナー＆プロトコールの基礎知識
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	検定対策 Ⅲ	(NGB25K)
講義名 (コード)	検定対策 ⅢC	(NGB25KC)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	柄澤 郁子	時間数 30
成績評価教員	柄澤 郁子	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1年次学習したWordの機能を活用し実務に使えるレベルに到達させ 社内文書や報告書を正確かつ迅速に作成できる
全体の内容と概要	実務で頻出する報告書や議事録などの文書作成・編集・管理の課題を題材に テンプレート作成、書式の運用などの実践的スキルを習得する
授業時間外の学修	ビジネス文書のフォーマットを覚えて、構成・必須項目・書式を理解し、 状況に応じて正しく作成できるようになりましょう。
履修上の注意事項等	希望者は日商PC検定の受験が可能です。希望者には対策指導を行います。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ビジネス文書の基礎知識を理解	ビジネス文書とは・社内文書、社外文書の基本とちがい 資格試験概要紹介
2	ビジネス文書作成の基本を理解	作成する文書の確認・文章の入力・編集・文字の配置、装飾・保存
3	表を活用したビジネス文書が作成できるようになる	表の作成・レイアウト変更・文字の配置・書式設定
4	図形を活用した文書作成ができるようになる	図形の作成・図形に文字を入力・スタイル変更
5	あいさつ文問題対策 基本となる日本語力をつける	ご案内文書作成（あいさつ文機能）
6	表問題対策 読み取りやすい表の作成を理解	連絡文書作成（表の利用）
7	オブジェクト問題対策 目的に合わせた図形の活用できる	オブジェクトを活用した文書作成（図形・SmartArt）
8	練習問題を解くことでテンプレートや書式を適切に運用する力をつける	模擬問題 1 配置の設定・文字書式の変更，設定・定型文の入力・段落番号の設定
9	練習問題を解くことでテンプレートや書式を適切に運用する力をつける	・保存，表の配置設定・図形の装飾
10	練習問題を解くことでテンプレートや書式を適切に運用する力をつける	模擬問題 2 文字の装飾・配置の設定・文書の編集・ページ設定・保存
11	練習問題を解くことでテンプレートや書式を適切に運用する力をつける	表の作成・段落罫線の作成・図形の装飾・インデント設定
12	練習問題を解くことでテンプレートや書式を適切に運用する力をつける	模擬問題 3 配置の設定・文字書式の変更，設定・段落番号の設定・保存
13	練習問題を解くことでテンプレートや書式を適切に運用する力をつける	・インデント設定，表の編集・図形の装飾，配置，文字の入力
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日商 P C 検定BASIC公式テキスト・問題集 文書作成（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅢ		(NKT25E)
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅢC		(NKT25EC)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	1 学年で学習したExcelの基本操作をさらに深めて、データを整理・分析する力をつける。 実務的な資料作成ができ日商PC検定Basicレベルの内容を理解して問題を解けるようになる。
全体の内容と概要	ビジネスで必須となる機能の習得を目指し、日商PC検定Basicに対応した内容を扱い、 模擬問題を通して資格取得に必要な知識と操作スキルを身につける。
授業時間外の学修	検定の出題形式に慣れるため配付した練習問題や模擬問題に取り組み、操作手順を確認しながら 繰り返し練習しましょう。
履修上の注意事項等	希望者はMOS・日商PC検定の受験が可能です。希望者には対策指導を行います。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	自動計算できる集計表を自分で考えて作成できる	1年次に習得した関数をつかって身近なデータで集計表を作成する「出席率計算シート」
2	計算式や書式設定を正確に使い基本的な見積書を作成できる	計算式の問題「見積書」 (計算式、SUM関数、通貨書式設定、罫線などの基本操作、レイアウト調整)
3	正しく計算し、グラフを用いてデータを分かりやすく表現できる	グラフ作成の問題「上半期を基準とした売上割合(折れ線グラフ作成)」 (SUM関数、グラフ作成、グラフの編集)
4	結果を自動計算してデータを整理・分析できる	データベースの問題「テスト結果一覧」 (SUM関数、IF関数、書式設定、並べ替え、フィルター)
5	計算式を正しく使い、書式などで正確で見やすい表を作成できる	計算式の問題「売上実績表」 (計算式、SUM関数、ROUNDDOWN関数、罫線などの基本操作、書式設定)
6	正しく計算し、グラフ作成・編集でわかりやすく視覚化できる	グラフ作成の問題「利用割合(縦棒グラフ作成)」 (SUM関数、グラフ作成、グラフの編集)
7	条件判定を行い、売上データを整理・比較できる	データベースの問題「売上比較」 (IF関数、書式設定、並べ替え、フィルター)
8	正確に集計し、書式設定で見やすい表を作成できる	計算式の問題「検定試験成績表」 (SUM・AVERAGE・MAX・MIN関数・書式設定)
9	構成比を正しく計算し、グラフで割合を視覚的に表現できる	グラフ作成の問題「商品別売上高」 (構成比の計算、円グラフ作成、グラフの編集)
10	順位の算出、実績データを整理し上位データを抽出できる	データベースの問題「今期実績表」 (RANK.EQ関数、書式、並べ替え、トップテンフィルター)
11	練習問題を解くことで基本的なデータ処理ができ、指示に基づいた処理を制限時間内に正確に行うことができる	日商PC検定 Basic問題 基本の計算式・累計の計算
12		日商PC検定 Basic問題 グラフの作成・編集
13		日商PC検定 Basic問題 データベース分析(並べ替え・フィルタ・IF関数)
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	日商PC検定BASIC公式テキスト・問題集(貸出)
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	担当教員はIT業界での実務経験を活かし、Microsoft Office製品各種の操作を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザインⅢ	(NKT25G)	
講義名 (コード)	キャリアデザインⅢB	(NKT25GB)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	キャリアコンサルタント、 合同会社ライトハウス・キーパーズ代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上の者を期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解 進路手帳活用方法理解	【オリエンテーション】講師紹介・前期の内容について説明 【演習】進路手帳記入活用
2	就職情報の入手方法と活用について理解する	【企業情報収集方法】キャリアスUCエントリー、マイナビ活用方法説明 【演習】キャリアスUCエントリー、マイナビエントリーと活用
3	就職活動スケジュールの理解就職活動計画作成	【就職活動スケジュール説明】就職に必要な書類、スキル、準備物 【演習】就職活動スケジュール作成（シート記入）就職に必要な書類、スキル、準備物チェックシート記入
4	自己紹介ができる	【自己理解】自分の長所、短所、内的・外的キャリアを考える方法 【演習】自己紹介文作成と発表
5	他人の紹介ができる	【他者理解～自己理解】他者の長所を見出し、自己理解、自己PR書作成に活用 【演習】自己紹介文の修正と発表
6	自己PR書が書ける	【自己PR書とは】自己紹介、他者から見た自分の長所から自己PR書に落とし込む 【演習】自己PR書作成200字～400字程度、提出
7	雇用状況、企業について理解する	【企業を選ぶ視点】企業を選ぶ6つの視点を知り、志望する企業を選択 【演習】企業研究 進路手帳ワークブック利用
8	仕事（職種）について理解を深める	【仕事理解】どんな仕事があるか？どんな仕事に興味があるか？どんな会社か？ 【演習】興味がる仕事、会社の研究シート作成（進路手帳）
9	面接の基本知識を理解する	【面接に行くためには】準備とマナー、ポイントについて 【演習】面接に向けた行動計画と準備、行動計画表作成（進路手帳）
10	面接の受け方、マナーを理解する （1）	【面接について】基本スキルの確認、集団面接、個別面接、グループディスカッション【演習】面接演習 スーツ着用学生同士
11	面接の受け方、マナーを理解する （2）	【面接】悪い面接マナー説明、服装、挨拶、言葉遣い、姿勢 【演習】面接演習 スーツ着用学生同士
12	面接のテクニックの習得	【面接】良い面接マナーと悪い面接マナー復習 評価項目について 【演習】面接演習 スーツ着用 学生同士で評価並びに講評する
13	インターンシップについて理解する	【インターンシップ】企業選定、企業への応募、連絡方法について 【演習】インターンシップ計画表作成（進路手帳）
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【演習】挨拶状作成（進路手帳）
15	フィードバック	テストの振り返り・フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスプレゼンテーション I	(NKT25K)
講義名 (コード)	ビジネスプレゼンテーション IC	(NKT25KC)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	竹内 玲子	時間数 30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間 春学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター (株)、東京精電 (株) 歴任	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1年次の経験を生かしながら、聞き手にとってわかりやすく伝わるプレゼン資料づくりや話し方を身につけることを目指す。
全体の内容と概要	プレゼン資料を作成し、クラス内発表を重ねながら、伝わるプレゼンの構成力と表現力を身につけます。前期・後期を通じて実践的なプレゼンテーション力の習得を目指します。
授業時間外の学修	発表準備として資料作成や修正、情報収集、練習などに毎回取り組んでください。授業内で得たフィードバックをもとに、次回までに内容を改善することが必要となります。
履修上の注意事項等	この授業では資料づくりや発表の回数が多いので、毎回しっかり準備をしてください。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	課題を振り返り、良かった点と改善点を自分で言語化できる	1年次の期末テスト課題を修正・構成し、自分の発表のどこを改善するかを考える
2	改善点をもとにスライド構成や内容を分かりやすく修正できる	見やすいデザインや伝わりやすい表現を取り入れ、改善後のスライドを完成させる
3		
4	生成AIで発表テーマに基づく基本構成を作成できる	生成AIでプレゼンテーション作成① 発表テーマからプレゼンテーション生成
5	図解や内容を充実させ、資料としての完成度を高める	生成AIでプレゼンテーション作成② 図解案を生成し全体をブラッシュアップする
6	スライドを校正してデザインと流れを整えて仕上げられる	生成AIでプレゼンテーション作成③ スライド全体を校正してデザイン調整やストーリー改善を行って完成させる
7	課題内容と自分の考えを話し質問に答えられるようになる	クラスで発表し、聞いた人からの質問やコメントに答える
8	調べたニュースのポイントを説明し自分の考えを言えるようになる	自分が気になるニュースを調べ、その内容と自分の意見を文章にする
9	ニュースの内容をスライドで分かりやすくまとめ自分の意見をはっきり伝えられる資料を作ることができる	自分の選んだニュースからプレゼンテーション作成 前回まとめたニュースと自分の意見をもとに、PowerPointまたはCanvaを使ってプレゼンテーション資料を作成する 見やすいスライドの作り方を学びながら、発表の準備をする
10		
11		
12	ニュース内容と自分の考えをわかりやすく話し、質問に自分の言葉で答えられるようになる	まとめたニュースと自分の意見をクラスで発表し、聞いた人からの質問やコメントに答える
13		
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語コミュニケーションⅢ		(NKT25M)
講義名 (コード)	日本語コミュニケーションⅢ A		(NKT25MA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	細かなニュアンスを理解したうえで、場面に応じて文法、語彙を使い分け、コミュニケーションを図ることができるようになる
全体の内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「説明書き」が理解できる 「準備しよう」が理解できる 1	読解：ABCギフト券 聴解：発音に関する聞き取り
2	「表・リスト」が理解できる 「準備しよう」が理解できる 2	読解：例題 2 0、練習 5 0 聴解：文法に関する聞き取り①
3	実践問題が理解できる 1 「準備しよう」が理解できる 3	読解：中文理解 例題 2 1 聴解：文法に関する聞き取り②
4	実践問題が理解できる 2 「準備しよう」が理解できる 4	読解：中文理解 練習 5 1、5 2 聴解：会話表現
5	実践問題が理解できる 3 「準備しよう」が理解できる 5	読解：中文理解 練習 5 3、5 4 聴解：まとめ問題
6	実践問題が理解できる 4 問題の パターンに慣れよう 1	読解：内容理解（長文）例題 2 2 聴解：どんな返事をしますかー即時応答
7	実践問題が理解できる 5 問題の パターンに慣れよう 2	読解：内容理解（長文）例題 2 3 聴解：このあと何をしますかー課題理解
8	実践問題が理解できる 6 問題の パターンに慣れよう 3	読解：内容理解（長文）練習 5 5 聴解：どうしてですかーポイント理解
9	実践問題が理解できる 7 問題の パターンに慣れよう 4	読解：主張理解（長文）例題 2 4 聴解：どんな内容ですかー概要理解
10	実践問題が理解できる 8 問題の パターンに慣れよう 5	読解：主張理解（長文）練習 5 7 聴解：どうすることにしますかー統合理解①
11	実践問題が理解できる 9 問題の パターンに慣れよう 6	読解：主張理解（長文）練習 5 8 聴解：どれにしますかー統合理解②
12	実践問題が理解できる 10 問題 のパターンに慣れよう 7	読解：主張理解（長文）練習 5 9 聴解：まとめ問題
13	実践問題が理解できる 11 いろ いろなタイプの話の聞こう 1	読解：統合理解 例題 2 5 聴解：情報を聞こう
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスターN1読解 日本語総まとめN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語資格対策Ⅲ	(NKT250)
講義名 (コード)	日本語資格対策Ⅲ A	(NKT250A)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	小須田 代吉	時間数 30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	相手の心情を理解し、適切な言い回しをすることで、 コミュニケーション力を高めるとができる
全体の内容と概要	日本語能力試験N1の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	送別会などで、関係者に対し、お礼や抱負含むを改まったスピーチができる1	文法：～ところ(を) ～の至り、～をもって 語彙：文脈規定1
2	送別会などで、関係者に対し、お礼や抱負含むを改まったスピーチができる2	文法：～こととて ～にたえない ～たる 語彙：文脈規定2
3	送別会などで、関係者に対し、お礼や抱負含むを改まったスピーチができる3	文法：～限りだ、CHECK、まとめの問題 語彙：文脈規定3
4	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる1	文法：～じゃあるまいし、～んばかり、～たら/~ばそれまでだ 語彙：文脈規定4
5	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる2	文法：～ものを、～ときたら、たところで 語彙：文脈規定5
6	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる3	文法：～(よ)うが、～(よ)うが～まいが、～なら～で 語彙：文脈規定6
7	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる4	文法：～にすれば、～までのことだ、CHECK 語彙：文脈規定7
8	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる1	文法：～といったらない、～(よ)うにも～できない、～まくる 語彙：文脈規定8
9	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる2	文法：～にしたところで、～てみせる、CHECK、まとめの問題 語彙：文脈規定10
10	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解することができる1	文法：～つ～つ、～ともなく、～べく、 語彙：文脈規定11
11	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解することができる2	文法：～からというもの、～ながらに、～までのことだ、 語彙：文脈規定12
12	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解することができる3	文法：～をものともせず、～かたわら、CHECK、 語彙：文脈規定13
13	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる1	文法：～めく、～やいなや、～ごとき、 語彙：文脈規定14
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	文字語彙：ドリル&ドリルN1 文法：TRY N1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Webマーケティング実践Ⅲ	(NKT25Q)
講義名 (コード)	Webマーケティング実践ⅢA	(NKT25QA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	敦賀 由美子	時間数 30
成績評価教員	敦賀 由美子	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デザインツール「CANVA」を使用し、デザインの基礎から応用まで学び、媒体に合わせて視覚的に魅力的で効果的なデザインを作成するスキルを身につける。
全体の内容と概要	CANVAの基本操作とデザイン原則を学ぶ。レイアウト、配色、タイポグラフィなどの基礎を習得し、プレゼンテーション・SNS投稿画像やポスターなどの制作に取り組む。
授業時間外の学修	課外授業・体育祭・卒業発表に合わせたポスター等の作成
履修上の注意事項等	Canvaアカウントログインのため毎回各自のスマホを使用します。課題の提出はTeamsを使用しますのでID・パスワードの管理をお願いします。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	CANVAアカウント取得・共有方法確認、Webマーケティングの説明、SNS利用状況の確認
2	基本操作の習得	テンプレートの使用・画像加工・素材の挿入・ページの追加などの基本操作を学び、自己紹介ページを作成
3	基本操作の習得	テンプレートの使用・画像加工・素材の挿入・ページの追加などの基本操作を学び、自己紹介ページを作成
4	基本操作の習得	自己紹介ページのプレゼンテーション
5	デザインの基礎の習得	色・タイポグラフィ・レイアウトの基本を学び、オリジナルロゴ作成
6	デザインの基礎の習得	色・タイポグラフィ・レイアウトの基本を学び、オリジナルロゴ作成
7	テキストデザイン・文字組みの基本の習得	パンフレットの制作
8	テキストデザイン・文字組みの基本の習得	パンフレットの制作
9	テキストデザイン・文字組みの基本の習得	パンフレットの制作
10	効果的なキャプション・ハッシュタグの作成スキル習得	SNS投稿画像とキャプション作成
11	効果的なキャプション・ハッシュタグの作成スキル習得	SNS投稿画像とキャプション作成
12	効果的なキャプション・ハッシュタグの作成スキル習得	SNS投稿画像とキャプション作成
13	前期期末テスト	成果物制作
14	前期期末テスト	成果物制作・提出
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Canva 基本&デザインTIPS！ 無限に役立つ使いこなしワザ152 技術評論社
参考文献・資料等	①世界一やさしいCanva 無料で使えるデザイン作成ツールガイド インプレス ②ちなみにそれ、Canvaでできます！ インプレス
備考	